

学校ポスター作り挑戦

魅力発信へ素材写真撮影

県外から生徒を受け入れる「全国募集」導入校となった三戸高校に今年誕生した「クリエイティブ部」の生徒たちが7月24、25日の4日間、クリエイターのアドバイスを受けながら学校の魅力を発信するポスター作り挑戦した。初の具体的な活動とあって当初、生徒には少し戸惑いもあったが、学校の良い点、悪い点を見つめ直し、積極的にアイデアを出し、素材の写真撮影、ポスター案を作り上げた。(孫田秀樹)

三戸高校「クリエイティブ部」初の具体活動



学校近くの遊歩道で撮影するクリエイティブ部のメンバーとプロのクリエイター



撮影した画像を編集するクリエイティブ部の部長とクリエイター

「広告や水産の範囲で、どうすれば見てもらえるか考えよう」。写真家・コピーライターの日下慶太さん(46)が、文字や写真をこれでもかと詰め込んだポスター例を見せながら、密着性、サイバースピリット、シンボルが

大事とし、ワンビジュアル、ワンコピー(写真1枚、文字情報一つ)の大切さを説明した。

生徒一人に対し、県内で活躍するプロクリエイターに目下さんを含め、マシソンマンというゼミのメンバーと、アイデア出しを進め、学校を劇的に表す言葉「タグライン」と、キャッチコピーを紙に書き出した。初日はなかなかまとまらなかつたが、2日目、3日目と時間を追つことに面白いアイデアが出て「唯一無二」のポスター作りは手応えが出始めた。

キャッチコピーなどからイメージし、学校前の遊歩道に勢く武士、下校時の道とリンゴ、先生とゲーム、三戸留學大橋で叫ぶ」といっ

た素材を、初めて手に取る一眼レフカメラなどで撮影。今年、始まった児童生徒は、新学期が始まってから撮影することになったものの、他はほぼ、ポスターの形が出来上がった。

「字と図」の吉田慶さん(十和田市)は「アイデアを千変すると、柔軟に軌道修正をして、どんどん良い案が出てくる」と感心した様子。1年の松澤風花さん(15)は写真の撮り方を、知らないことを学べてうれしかった」と、考えを形にする楽しさに目覚めた様子。ポスターはひとりで制作、今後、クリエイターと意見交換しながらアイデアを磨き上げ、9月ごろ、ポスターを完成させる。